

タイトル	<b>自分たちで栽培した綿で</b>
名称（学校・地域）	<b>長野県伊那養護学校高等部中の原分教室</b>
日時・場所等	<b>通 年</b>
ホームページアドレス	<a href="http://www.nagano-c.ed.jp/inayo/">http://www.nagano-c.ed.jp/inayo/</a>

## 栽培した棉を手で紡いで糸にして・・・ その糸で織ったり編んだり製品作り

平成24年度4月に上伊那農業高等学校(上農高校)内に開室しました。現在20名の生徒、

6名の職員で生活しています。今年度初めての卒業生を送り出します。

### ○ 作業学習

上農高校の農場に5月初旬、白と茶色の和棉のタネをまきます。10日ほどで芽が出ます。

現場実習などで畑に行けないときは、草に負けそうで大変です。7月頃には黄色いオクラに

似た花が咲き始めます。9月頃からだんだんにコットンボールがはじけ棉を摘み始めます。



【ワタの花】



【コットンボール】



【はじけた！】



【白と茶の】



【チャルカで糸紡ぎ】



【カランコで織り】



【カギや棒で編み】



【編み製品】

【織

棉の世話から始まり全てにおいて手間がかかります。タネからだ半年以上かかってやっと一本の糸ができます。それから織っていきます。編んでいきます。だから一つの製品には、たくさんの時間とたくさんの手間とたくさんの努力がぎゅっと詰まっています。

先日地域の職人さんに教わりながら紡いだ糸を藍や茜で染めてみました。化学染料